

閉域ネットワークサービスの活用 仙台画像検診クリニック様

仙台画像検診クリニック様
ホームページはこちら



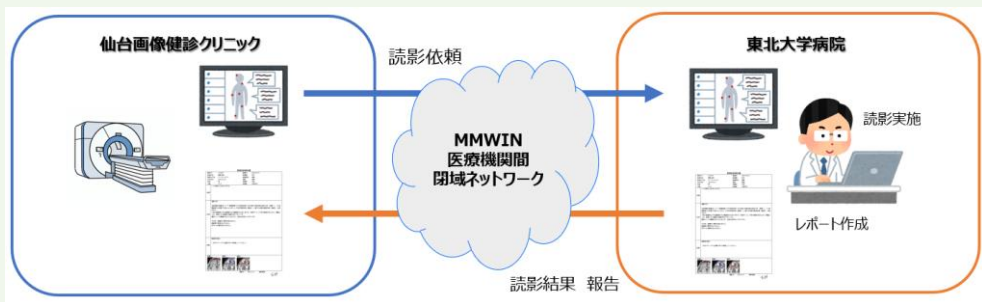
MMWINでは、診療情報のバックアップならびに参照システムの提供がメインですが、それとは別にいくつかのサブシステムをご用意しております。今回は、そのうちの1つである医療従事者間におけるネットワーク通信サービス（医療機関間閉域ネットワークサービス）についてご紹介いたします。このサービスは、現在9施設において遠隔読影や周術期のコンサルテーションにご利用いただいております。活用事例として、遠隔読影にご利用いただいております仙台画像検診クリニック メディカル営業部 主任 奥野 舞様にお話を伺いました。

画像診断において東北大学病院の読影支援を受ける際に、この閉域ネットワークサービスを利用してあります。読影される医師が自施設にしながら直接当クリニックのシステムにログインし、患者さんの撮影画像を読影・レポート作成が可能になることから、積極的にこのサービスを利用しています。

当クリニックは、検診をメインとしているため治療目的でMMWINを使う機会はほぼありませんが、宮城県が中心となって地域医療連携が強化されていることを踏まえ、ネットワークに参画することで各医療機関さんとの連携を図ることができれば、結果、受診いただく患者さんにも質の高い医療を提供できるようになると考えております。



仙台画像検診クリニック
メディカル営業部 主任 奥野 舞様



現在は東北大学病院を中心に画像診断をさせていただいておりますが、将来的には他の医療機関との連携が広がることを期待しておりますし、患者さんが他の医療機関を受診する際に、当クリニックからも蓄積した知見の情報を共有していくような使い方もできるのではないかと考えております。

一般社団法人 みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

〒980-0811 仙台市青葉区一番町1 丁目15 番19 号

【事務局】

TEL : 022-395-6312 FAX : 022-395-6313

【サポートセンター】

TEL : 022-399-6880

E-mail : office@mmwin.or.jp URL : http://mmwin.or.jp/

当協議会からのメールを受信できない場合がございますので、「@mmwin.or.jp」からのメールを受信できるように設定してください。
『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。
※本誌の収録内容の無断転載、複写、引用、改変等を禁じます。



©2023 MMWIN

全医療・介護・福祉分野、職種が想いをひとつに「オールみやぎ体制」でみやぎをつなぎます



MMWIN® 通信
みんなのみやぎネット® NEWS

2023
12.22
vol. 75

発行：みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

県北圏



CKD患者の早期情報連携 登米市民病院様

大崎市民病院様を中心とした、県北圏におけるCKD患者の早期情報連携の続報をお伝えいたします。同年8月より、新たに登米市民病院様が、この連携に参画されました。また、11月17日には、大崎市民病院様との2回目の遠隔カンファレンスが実施されました。

登米市民病院様では、糖尿病専門医の高橋 賢治先生が、CKDの治療にあたっておられます。2回目のカンファを終え、高橋先生、ならびに管理栄養士長の芳賀様に、MMWINを活用した施設間連携の所感についてお話を伺いました。



大崎市民病院様との
遠隔カンファレンスの様子

2回目なので緊張せず、しっかり質問できました。問いに対して杉浦先生が、とても丁寧に答えてくれますので、本当に勉強になります。

特に今回、一般的に広く流通し処方されている薬が、実は腎障害の誘因の一つとなってしまうようなことを教えていただき、状況に応じて処方薬の変更にトライしていく必要性を感じました。そういった薬の変更の経過等も含め、紹介状の授受のみで取得できる情報は、あまり多くないことから、そこから読み取れない情報を補完するツールとして、MMWINは有用ではないかと思います。

糖尿病が良くなっても腎機能は悪くなっている患者さんは多く、歯がゆさを感じています。腎臓専門医 杉浦先生の視点で、どこが増悪因子になっているかを教えてもらうことは、新しい発見につながり非常に助かります。また、他の病院の治療方針や、紹介のタイミングなども気になることです。今後、他拠点とのカンファレンスが実現することを期待しています。このような取り組みに、行政にも積極的に参加してもらいたいと思います。腎臓の薬は高価なため、自己中断してしまう患者さんもあります。たとえば、助成などにより患者さんの負担を減らすことができれば、透析患者の減少にもつながると思います。



登米市民病院 内科副科長
高橋 賢治先生

現在は、「高齢者の筋肉維持のため、たんぱく質の摂取は大事！」という流れがあり、普段から糖尿病やCKDの患者さんに栄養指導を行なう際、先生から低たんぱく食の指導オーダーはほぼありません。ただ、学会などではCKD患者の腎保護を目的として、たんぱく質摂取を抑えるべきとの声も多く、難しさを感じて迷うこともありました。当院には腎臓の専門医がいないので、今回のように杉浦先生の話聞けるのは大変貴重です。

今回、たんぱく質について質問をさせていただいたところはっきり答えをいただき、大変楽になりました。これからの栄養指導に自信をもっていきます。今後、先生にはどんどん栄養指導のオーダーを出してもらい、増加傾向にある登米市の透析導入を食い止めていければと思います。



管理栄養士長
芳賀 なおみ様

MMWIN重心連携 参加施設の声 仙台エコー医療療育センター様

MMWIN通信vol.73（2023.6.23発行）で紹介いたしましたMMWIN重症心身障害児者連携から、半年が経過いたしました。現在、連携に参加いただいている施設は「仙台エコー医療療育センター様」「仙台赤十字病院様」「仙台西多賀病院様」「国立宮城病院様」です。今回は参加いただいている、仙台エコー医療療育センターの天江院長にお話を伺ってまいりましたので、紹介させていただきます。



仙台エコー医療療育センター
天江 新太郎 院長

MMWIN重心連携に参加したご感想はいかがでしょう

当初、仙台赤十字病院の伊勢先生より話をいただいた時は、まだMMWINに参加したばかりで、ポータルの操作にも慣れない状態でした。その後、伊勢先生と仙台西多賀病院の一戸先生とオンラインで、ポータル操作しながら模擬患者の運用検証を行った事で、MMWINの重心連携のイメージがつかえました。

特に、移行期医療にはMMWINの重心連携の必要性を実感しました。

ただ、当院はまだ画像のアップロードが出来ていないため、早急に連携出来るように準備したいと思っています。

MMWIN重心連携に期待することはありますか

重心の患者を診る医師が不足している状況にあるなか、患者の転院時に診療情報提供書とMMWINで参照できる検査情報や画像が一体化していくと、活用が大いに広がるのではないのでしょうか。また、病院間での情報共有も必要ですが、在宅の患者を診られている施設の検査情報などが共有されると、患者を受け入れる際に安心感があります。

在宅の患者に対するケアに関しては、訪問看護ステーションへ指示書を出して、指示に対する報告書を提出してもらうのですが、紙ベースでのやりとりが常態化しています。この情報連携が、訪問看護ステーションだけでなくその他の連携施設間でも全部MMWINで繋がると良いと思っています。

MMWIN重心連携の課題はなんでしょう

重心特有の生活面の記録を、どのように共有していくか、病院にかかっていればMMWINで確認出来るのですが、在宅患者の情報の共有方法が急務かなと思います。

県内の訪問看護ステーションや介護施設への参加促進をしております。ご参加のご希望や興味をもっていた施設様は、MMWIN事務局までご連絡をお待ちしております。

仙台エコー医療療育センター様では、医療型短期入所（レスパイト）を希望される患者ご家族が「どこを利用したら良いかわからない」場合などに、短期入所が出来る事業所を紹介するコーディネートをされています。

県内の受入先入所施設とは、定期的に情報共有するための連絡会議も開催されており、会議内では「MMWINの活用促進」もご案内いただいております。



薬業連携 参加施設の声 カメイ薬局台原店様



今年8月に開催した保険薬局様向けのWEB講座では、東北労災病院 薬剤部 主任 熊谷 史由先生より、トレーニングレポート（TR）の授受について、従来のFAXからMMWINのコミュニケーション機能を利用した運用に、変えていく取り組みについてお話がございました。試験運用としては、今年5月より始められ、およそ半年が経過いたしました。この取り組みに参加されている1人であるカメイ調剤薬局 台原店 管理薬剤師の佐々木 貴彦様に保険薬局様側からの感想などを伺いました。

【試験運用の依頼を受けた時の感想は】

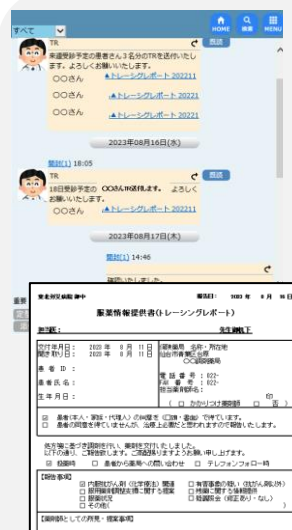
試験運用に参加する前は、FAXを利用してTRを送信していました。FAXだと一方的な情報の発信となってしまいましたが、コミュニケーション機能を利用すれば、チャットのような情報のやり取りができると思いました。また、送る側としては1回に1～2件ですが、受け取る側は、1日に何件もFAXを受け取ることで、負担になっているのではないかと考えていたため、少しでも負担を軽減できるのであれば、MMWIN上でのやり取りを進めたいと思いました。



カメイ調剤薬局 台原店
管理薬剤師 佐々木 貴彦様

【実際にコミュニケーション機能を使ってみて】

FAX送信で一番気になっていたのが、送った情報が間違いなく届いているかどうかでした。MMWINのコミュニケーション機能を利用した場合では、メールよりも簡単な情報のやり取りが可能です。情報を受取ってもらったことや、診療科に情報を提供してくれたこと、カルテに記載をしてくれたことなどリアクションをしていただくことで、情報提供の手ごたえというものを実感することができました。具体的な方法としては、病院側からいただいたフォーマットを基に内容を記入し、薬剤部の方へファイルを添付して送信しています。顔の見える関係ということもあり、メールでは用いられる挨拶文などを省略して情報のやり取りができていたことが、より気軽に情報提供ができていた要因かと思われます。現在は、月に20件前後のTRをMMWINのコミュニケーション機能を介して送信しています。次回診察時までに見てもらいたい情報であれば、通常通り送信し、緊急性の高いものに関しては、電話で相談するなどの対応をしています。他には、抗がん剤のレジメン変更についての退院時サマリーを受取ったり、病院で得られた患者さんの残薬情報の情報共有をしたりしています。出荷調整中の薬剤に関する薬局の在庫状況の連絡にも使用したことがありました。



実際のメッセージのやりとり
（一部改変）

【その他のMMWIN活用例】

入院時の投薬内容や、検査値の確認に利用しています。患者さんがお薬手帳を忘れた時など、得たい情報をMMWINで確認しています。残念ながら、その患者さんがMMWINに入っていないことも多いため、今後は、MMWINに加入する患者さんが増えていくことを期待します。